

麻生区区民会議 第10回若い世代が住みやすいまちづくり部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年9月25日（金）午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所：麻生区役所第4会議室
- 3 出席者：[専門部会委員]上野委員、金光委員、白井委員、菅野委員、山田委員
（欠席）石井委員、梶委員、志村委員、高橋委員、吉垣委員
[事務局] 企画課 井上課長、白石担当係長、佐藤 [コンサルタント] 佐藤
- 4 傍聴者 2名
- 5 議 事

(1) 調査審議課題の検討について

①企画部会からの報告

菅野委員から、区民会議ニュース第3号の内容、発行予定等について報告。

②麻生区の魅力のブランド化とPR

●子育てフェスタのアンケート結果について

事務局から子育てフェスタのアンケート結果について報告。

【主な意見】

- ・魅力の中で、緑が多いと治安が良いが一番数値的に高い。
- ・魅力について、大体が、どちらともいえないが多くなっている。その次に多いのが、人間関係が良いだとか、交通の便が良いが高い。
- ・一軒家が多いことが、地域の人間関係がよいことに関係しているのではないか。マンション等ではあまり交流はうまくない気がする。
- ・人間関係が良いことの理由に、ママ友などとの関係が良いことが挙げられるのではないか。
- ・何故子育てがしやすいと感じているのか、その理由が見つけ出せるとよい。
- ・芸術のまち、沿線に私立学校が多いなど、こちらで数値が高いだろうと判断していたが、低いものがある。
- ・「地域で仕事がしやすい」の結果を見ると、仕事はしづらいという結果が出ている。現地採用の企業等がないことが要因ではないか。
- ・アンケートの集計結果について、さらに分析をし、それを加えることでそれが魅力に繋がるのではないか。
- ・緑が多いことや治安が良いことも魅力になりえるが、それ以外の芸術のまちなど、目玉となるものが必要。

●PRの方法について

- ・魅力を集約し外に発信する必要がある。
- ・区にも広報専門の部署をおき、そこが中心になってPRすれば良いのではないか。
→現在、市のブランド戦略担当が、広報について各区を回り調査を行っている。麻生区では、地域情報誌（タウンニュース、メディアあさおなど）の効果が大きい。
- ・以前、まちづくり市民の会でPR誌を作成しHPにアップしたところ、グーグルやヤフーに取

り上げられていた。

- ・区内に対する広報手段は多くあるが、外に発信するものがないのではないか。
- ・PR誌などを作るにしても、デザインなど専門の業者に委託をして作り上げていくことが必要。

③空き家対策について

●6大学学生課等へのヒアリングについて

事務局から、各大学への依頼状況について説明。田園調布大学は、通学している学生の多くが自宅から通っているため、学生からの住居の相談等は受けておらず、玉川大学は、学生の住居の関係は業者委託しているため、大学では学生の住居のニーズ等は把握していない。

【主な意見】

- ・日付を特定し、その日に集中して各大学を回ると良いのでは。
- ・大学職員の委員は、可能であれば、その大学のヒアリング時に参加してもらう形でよいのではないか。

【決定事項】

- ・田園調布学園大学、玉川大学についてはヒアリングに行かない。
- ・10月6日（火）に4大学にヒアリングに行く。

●空き家対策の事例について

コンサルタントより空き家対策の事例等について説明。

【主な意見】

- ・若い世代が住みやすいという環境づくりとして必要。

④フォーラムについて

【主な意見】

- ・流山市の人を呼ぶより、空き家や少子化に関する本を執筆している著者を呼び、基調講演を行ってもらうのはどうか。
- ・世の中の話題で、消滅都市であるとか、少子化について挙がっている。
- ・一般の市民が参加する形でよいのか。→各町会の関係者を呼ぶのはどうか。
- ・市民活動部会と合同開催がよいのではないか。

【決定事項】

- ・市民活動部会の方向性を確認し、どのような内容にするのか検討する。

(2) 次回について

- 子育てフェスタで実施したアンケートの結果・分析から、魅力を特定する。
- PR方法について検討する。
- 学生課へのヒアリングの結果について検討する。
- フォーラムについて、市民活動部会の検討結果を基に、検討する。